

# 柔道競技要項

期 日	令和元年 6月29日(土)・30日(日)
会 場	沼津市香陵武道場 住所:410-0832 静岡県沼津市御幸町15 電話:055-933-0330(勤労者体育センター)
審判・監督会議	9時30分
開会式	10時00分
閉会式	競技終了後

## A. 競技規定

- (1) 試合は「国際柔道連盟試合審判規定」による。
- (2) 試合時間は、全国大会団体予選・男女個人戦とも4分とし、勝抜戦は3分とする。
- (3) 「優勢勝ち」の判定基準について
  - ① 団体試合は、「技有」又は「僅差」(指導差2)以上とする。
  - ② 団体戦の代表戦(任意選出)及び個人試合は、「技有」以上とする。ただし勝敗が決しない場合は、延長戦を(ゴールデンスコア)時間無制限で行う。両試合者が「同時反則負け」「同時一本」の場合は、延長戦(ゴールデンスコア)で勝敗を決する。代表選以外の「同時一本」の場合は「引分」とし、「同時反則負」の場合は両者負けとする。
- (4) 関節技においては、その効果があると認めるとき、審判員の見込みによって「一本」の判断を下すことができる。但し、絞技においては、見込みによる判定を行わない。
- (5) 選手は、全日本柔道連盟規格の柔道衣を着用し、規定のゼッケン(横 $30 \pm 3$ cm, 縦 $22 \pm 3$ cm)を付けること。また、試合中柔道衣の破損などにより、試合に支障をきたす場合には、同チームの別の柔道衣(規定に合ったもの)の着用を認める。(H30年までは旧規格でもよい)
- (6) 試合中審判に対して意見(抗議)を言う監督については、三人の審判員で合議し、その監督に言動を慎むように注意をすることができる。なお続くようであれば、その監督を退場させることができる。(全柔連通達事項を重視する)
- (7) 出場選手は、全日本柔道連盟に登録している者とし、申し込みにあたっては、全日本柔道連盟登録IDナンバーを記入すること。
- (8) 出場選手の変更については、正当な理由がある場合、所定の用紙に手続きした上で、顧問会議によって可否を決定する。
- (9)
  - ① 脳震盪対応について、選手および指導者は下記事項を遵守すること。  
ア 大会前1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。  
イ 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。  
(なお、至急、専門医(脳神経外科)の精査を受けること。)  
ウ 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。  
エ 当該選手の指導者は、大会事務局および(公財)全日本柔道連盟に対し、書面により事故報告書を提出すること。
  - ② 皮膚真菌症(トングランス感染症)については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。脳震盪対応については、全柔連通達事項を厳守する事。

## B. 競技方法

- (1) 全国高専大会団体予選
  - ① 試合は、5高専によるリーグ戦で行う。
  - ② 各試合は、5名の選手による点取り試合方式で行い、試合ごとのオーダー変更を認める。
  - ③ チーム人員は、監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手7名以内、計10名以内とする。

- ④ リーグ戦内のチーム対チームの勝敗は、勝数の多いチームを勝とする。勝数が同数の場合は、勝内容(一本勝数・技有勝数)の多い順で決定する。勝内容も同じ場合は、引き分けとする。ただし、一本勝ちと反則勝ちは同等とする。
  - ⑤ リーグ戦の順位の決定は、チーム戦勝数の多いチームを上位とする。勝数が同数の場合は、負数の少ないチームを上位とする。勝負同数の場合は、総得点の多いチームを上位とする。それでも勝負が決定しない場合は、代表戦によって決定する。
  - ⑥ 団体試合の勝内容は、一本勝ち(不戦・棄権・反則)10点、技有勝7点、僅差勝3点、引き分け・負け0点とする。
  - ⑦ オーダー用紙の提出は、試合開始10分前までに行う。試合が連続してある場合は、前の試合終了後速やかにオーダー用紙の提出を行うこと。(当該試合場の試合係は、両チームのオーダー用紙を確認してから掲示すること。)
  - ⑧ 表彰は、1位に優勝杯、1位、2位、3位に賞状を授与する。
  - ⑨ 優勝校は、第54回全国高等専門学校体育大会(団体の部)への出場権を得る。
- (2) 男子個人の部
- ① 出場人員は、監督1名、マネージャー1名、選手は60kg級・73kg級・90kg・90kg超級の4階級に14名以内の出場とする。
  - ② 試合は、体重別によるトーナメント戦とする。(トーナメント戦の組合せについては、出場人数の関係上試合数に不平等性がある場合、顧問会議で確認し再抽選を行うことができる。)
  - ③ 3位決定戦は行わない。
  - ④ 計量に合格しない者は、出場できない。計量は、マネージャー立会いのもと行い、所定の時間内であれば何度でも行うことができる。ただし選手の計量は1日で行うものとする。(大会初日の試合終了後の所定時間内か、個人試合当日の所定時間内のどちらかを、選手が選択できる。)
  - ⑤ 前年度3位以内に入賞した選手を、シード選手とする。
  - ⑥ 表彰は各階級1位、2位、3位に賞状を授与する。
  - ⑦ 各階級の優勝者は、第54回全国高等専門学校体育大会(男子個人の部)への出場権を得る。
- (3) 女子個人の部
- ① 階級は、軽量級・中量級・軽重量級・重量級とする。\*第50回全国大会より、女子の階級についてはエントリー状況を確認して階級が決定されるため。
  - ② 試合組み合わせは、顧問会議にて出場者数を確認し、リーグ戦・トーナメント戦の試合方式を決定し、抽選を行う。
  - ③ 計量は、顧問会議の時間に、マネージャー立会いのもと行い階級を確認する。
  - ④ 表彰は各階級1位、2位、3位に賞状を授与する。
  - ⑤ 各階級の入賞者は、北陸地区の同階級入賞者との間で、東海地区・北陸地区の代表顧問間により全国大会出場の決定を行い、東海北陸地区代表として各階級3名が、第54回全国高等専門学校体育大会(女子個人の部)への出場権を得る。(前年度全国大会上位入賞者等、過去の実績を重視する。)
- (4) 勝抜団体試合
- ① 出場人員は、監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手10名以内、計13名以内とし、全国大会「団体の部」予選に出場しない選手とする。
  - ② 試合はリーグ戦とし、7名による勝抜戦で行い、試合ごとのオーダー変更を認める。
  - ③ 順位の決定は、勝数の多いチームを勝とする。同勝数の場合は、負数の少ないチームを上位とする。勝数・負数が同じ場合は、残者数の多いチームを上位とする。それでも順位が決定しない場合は、代表戦を行う。
  - ④ オーダー用紙の提出は、試合開始10分前までに行う。試合が連続してある場合は、前の試合終了後速やかにオーダー用紙の提出を行うこと。(当該試合場の試合係は、両チームのオーダー用紙を確認してから掲示すること。)
  - ⑤ 表彰は1位、2位に賞状を授与する。